

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「イオン専用列車、JR貨物が運行」
- 2) 「セブンイレブン、店舗で食品ゴミを肥料にリサイクル」
- 3) 「第三銀、ATMの明細にスクラッチくじ」

1) 「イオン専用列車、JR貨物が運行」

日本貨物鉄道（JR貨物）は14日、イオンに納める荷物を運ぶ専用列車「イオン号」の運行を始めた。アサヒビールやネスレ日本などイオンと取引のある4社が、年末年始に販売が増える商品を運ぶ。1回の運行で12フィートコンテナ120本が運べ、東京と大阪の貨物駅を14日と21日にそれぞれ1往復する。

専用列車を使った複数の荷主による共同輸送はJR貨物では初めて。トラック輸送を鉄道などで代替する「モーダルシフト」を推進する。イオンの岡田元也社長は「お客様のエコへの関心は高く、鉄道貨物の活用は大きな可能性を秘めている」と述べた。

鉄道輸送は企業にとってはあまり効率が良い手段ではないかもしれないが、エコの観点からは推奨されるべきことだと思う。イオン号が走っている姿を見ることで企業に抱くイメージも良くなると思うし、アピール要素としても使えるだろう。他の企業も速達性を要しない荷物の運搬にはぜひ取り入れてもらい、垣根を超えたエコの取り組みが広がれば良いと思う。

2) 「セブンイレブン、店舗で食品ゴミを肥料にリサイクル」

セブンイレブン・ジャパンは11日、コンビニエンスストア店舗から出る食品ゴミを液体肥料にするための小型生ゴミ処理機を、来年2月から数十店舗に試験的に導入すると発表した。化学大手のクラレ、東京農業大、東北大と連携して、実用化を進めていく。

この肥料を使って、野菜を栽培するなど、新しい形態での食品リサイクルの実現を目指すプロジェクトだ。クラレと共同開発した生ゴミ処理機で、残渣を24時間で液体化する。それをメタン発酵装置で液体肥料にして、セブンイレブンが保有する農場「セブンファーム」などで野菜栽培に活用する。

来年からの試験運用の状況を見て、順次拡大する方向だ。コンビニでまとまって生ゴミ処理装置の設置や液体肥料化に取り組むのは業界初となるもよう。

食品ゴミをそのまま処理工場へ運搬するより、各店ごとに液体化処理したものを運搬する方がコストも削減出来そうだ。セブンファームとの連携などは大手企業だからこそ出来るリサイクルシステムだと思うので、効果が実証されれば全国に拡充して農業と小売の一体化をますます推進してもらいたいと思う。

3) 「第三銀、ATMの明細にスクラッチくじ」

第三銀行はATMからスクラッチくじが付いた明細票を発行するサービスを18日から始めると発表した。第三銀行の名前にちなんで、スクラッチ部分を削り「3」の数字が3つそろると、デザートなどがもらえる。ATMの明細票と景品を交換する取り組みは他にもあるが、スクラッチくじを出す機能が付いたATMを運用するのは全国で初めてという。

三重県の三井アウトレットパークジャズドリーム長島内に設置している第三銀行のATM1台でサービスを始める。ATMは日本NCR製で、サービスは地域振興の一環だ。あたりくじを津市の老舗レストラン、東洋軒のジャズドリーム長島店に持っていくと、「おまかせデザートセット」1人分か、「ブラックカレーパン」1個と交換できる。あたりくじの有効期限はATMの取引から1カ月以内。日本NCRは今後、レジャー施設などで同機能を搭載したATMを売り込んでいくことも検討する。

「ゴミ」になりがちな明細に楽しみを付けるのは良いアイデアだと思う。ATMは明細を発行しないことも選択できるし、ペーパーレス時代の今はレシートや明細など極力不要な紙を減らすような動きもあるが、買い物後や手続き後にちょっとした喜びを得られるのであれば期間限定のイベントとしてあってもよいのではないかと思う。ハズれた時にはくやしくて余計に“ゴミ感”が強まりそうな気がするが...